

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 18章 18-30節 >

1 (18-19) なぜイエス様は「善い」にこだわられたのか。

「善い先生」と呼び掛けられた議員に、「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない」と返されたイエス様は何を言われたかったのでしょうか？ イエス様は、彼がイエス様のことを神に等しいお方とまでは考えていないことを指摘されたのです。しかし、イエス様こそが「わたしに従いなさい」(22)と呼び掛けて下さるお方、この方に従うことが大事なお方、神様が私たちに従うためにお送り下さった救い主キリスト、神様のひとり子なる神なのです。

2 (20-23) 私たちの自分の力でなく、神様によって救われる道あり。

議員が「何を為せばいいか」と聞いたのに対して、イエス様は十戒に記されたことを為せと答えられました。すると彼は「全て為して来た」と答えましたが、イエス様は「それは理解が浅い」と示し返されたのです(22)。すなわち、私たちは他の人よりましなことはできるかもしれませんが、神様の目から見て善しとされることを全て完全に為すことはできず、それ故に、何かを為すことによって神様に善しとされることはあり得ないのです。だからこそ、1でイエス様が強調されたこと、その善きお方(神=イエス様)に従う道がまだある(神様が用意して下さっている)ということが重要になって来るのです。

3 (24-27) 聖書に記されたような神様であるからこそ信じるに足る。

「人間にはできないことも、神にはできる」(27)、もし神様が本当におられて、その神様が聖書に示されたような神様なら、これはその通りだと認めるしかない内容です。だからこそ、私たちは聖書に真剣に向かい、そこに記されている内容を理解し、それが本当かどうかを確かめなければなりません。聖書を通して初めて、私たちは自分が罪深い(神様から離れた)ものであったことを知り、しかもなおその私たちを赦し、新しい生き方を用意して下さっている神様がおられることを知らされるのです。信頼して生きるに足る真の神様の存在をです。

4 (28-30) 神の国は今から始まる。主の平安の支配の中を生きる時に。

「永遠の命」(18)「神の国」(29)は、今は無いものではなく、今から入り始めることのできるものです(29-30節と共に、「神の国はあなたがたの間にあるのだ」(17:21))。「イエス・キリストがその頭にして、その体な